

令和5年度 法人本部 年度計画	令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)
<p>独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第31条の規定により、平成31年3月29日付け30受文科政第132号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という)の中期目標を達成するための計画(中期計画)に基づき、令和5年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。</p>	
<p>1. 1 教育に関する事項</p>	
<p>(1) 入学者の確保 ①-1 入学希望者を対象としたホームページコンテンツの充実や、全日本中学校長会、地域における中学校長会等への広報活動を行い、国立高等専門学校の特徴や魅力を発信する。 また、中学生及びその保護者等を対象に国公立の高等専門学校が連携して合同説明会を開催することにより、組織的、戦略的な広報活動を行い入学者の確保に取り組む。</p>	<p>(1) 入学者の確保 ①-1 (a) 入学希望者及びそのステークホルダーを対象とした香川高専webコンテンツの充実や、香川県下の各中学校長や進路担当教員との情報交換等により、効果的な広報活動を行い、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。 ①-1 (b) 国公立高等専門学校合同説明会に参加し、入学者確保の取り組みに努める。</p>
<p>①-2 各国立高等専門学校は、入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、学校説明会等(女子中学生含む)の機会を活用することにより、入学者確保のための国立高等専門学校の特性や魅力を発信する。</p>	<p>①-2 対象を絞った入学者募集説明会(中学3年生・保護者を対象、中学教員を対象)、体験入学・オープンキャンパス(中学1～3年生・保護者・中学教員を対象、小学生～中学生を対象)、個別学校説明会、中学校主催の高校説明会・進路相談会、県内・近隣県への中学校訪問、母校訪問(教員による訪問、学生による訪問)、塾訪問、地域の各種イベント等の機会を活用し、香川高専の特長や魅力を発信する。</p>
<p>②-1 女子中学生向け広報資料を活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子学生を対象としたブース出展、国立高等専門学校の女子学生が研究紹介等を行う高専女子フォーラム等の機会を活用することにより、女子学生の確保に向けた取組を推進する。 ②-2 留学生の確保に向けて、以下の取組を実施する。 ・諸外国の日本国大使館等への広報活動を実施する。 ・英語版ホームページや説明会等を通じ、高等専門学校教育の特性や魅力について情報発信を強化する。</p>	<p>②-1 女子小中学生向け広報資料を作成し、それらを活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子中学生・保護者を対象とした相談コーナー設置、研究を伴う課外活動及び各種イベント等への女子学生の積極的参加を支援・促進する等により、女子入学希望者確保に向けた取組を推進する。 ②-2 優秀な留学生の獲得に向けて、留学希望者を対象とした広報誌への発信並びに既存の広報物の英語版コンテンツや香川高専Webコンテンツの充実等に取り組む、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。</p>
<p>③ 国立高等専門学校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、令和2年度に策定した作問ポリシーに基づき、「思考力・判断力・表現力」をより重視した入学者選抜学力検査を引き続き実施する。 また、居住地の近くの高等専等で受験が可能となることで受験生の負担軽減や利便性の向上につながる「最寄り地等受験」制度について、合同説明会やホームページ等での情報提供を充実させることにより、更なる利用促進を図る。 さらに、Web出願について、令和4年度における全国立高等専門学校でのWeb出願システムの導入後の運用状況を確認し、志願者と国立高等専門学校双方の利便性向上のため、安定的運用並びに必要なシステム改善を進める。 加えて、令和4年度に引き続き、受験生の志望校の選択肢を広げるため、一度の学力検査で複数の国立高等専門学校の志望が可能となる「複数校志望受験制度」を推進する。</p>	<p>③ 香川高専の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、アドミッションポリシーに基づいた推薦・学力・帰国生・編入学生の入学者選抜を実施する。 また、令和4年度から導入した出願システムのWebエントリー運用方法について検討する。 さらに、追選考制度の実績のある先行高専から資料や実施状況などの情報を入手し検討する。</p>
<p>(2) 教育課程の編成等 ①-1 法人本部がイニシアティブを取って国立高等専門学校の強み・特色をいかした学科再編、専攻科の充実等を促すため、法人本部の関係部署が連携をとり、国立高等専門学校の相談を受け、組織的に指導助言を行っていく。</p>	<p>(2) 教育課程の編成等 ①-1 「KOSEN(高専)4.0」イニシアティブ採択事業「先端的複合技術者を育成する学科横断型複合教育プログラムの構築」(平成29年度)で設計・導入した新カリキュラムが完成することを踏まえ、その導入効果(数学・物理学強化、リベラルアーツの充実)、カリキュラムの問題点について検証する。</p>
<p>①-2 国立高等専門学校の専攻科及び大学が連携・協力し、それぞれの機関が強みを持つ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図ることを目的とした連携教育プログラムを推進する。また、社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に取り組むため、産業界と連携したインターンシップ等の共同教育や、国立高等専門学校の特色をいかした共同研究等を実施する。 さらに、民間企業等と連携し、高等専門学校教育に実務家教員の登用を推進する。</p>	<p>①-2(a) 高等専門学校の強み・特色をいかした専攻科の教育内容の充実を図るため、令和6年度以降の専攻科の教育課程見直しを行う。また、教員の研究指導力を強化するため、「高専教員の研究力強化プログラム」等を活用して専攻科の研究指導ができる教員を充実させる。 ①-2(b) 令和3年度から開始した香川大学と連携教育プログラムについて、更なるプログラム履修生拡充に向けて教育・研究支援体制を充実させる。さらに、先端技術を学べるよう、企業との共同研究に専攻科生を積極的に参加させる。</p>
<p>②-1 学生が海外で活動する機会を後押しする体制の充実のため、以下の取組を実施する。 ・「日本型高等専門学校教育制度(KOSEN)」の導入支援対象校やこれまで学生交流協定を締結している海外教育機関を中心として単位認定制度の整備や単位互換協定の締結を推進する。 ・海外の教育機関との包括的な協定の締結などにより、組織的に海外留学や海外インターンシップ、学生交流を推進する。</p>	<p>②-1 本校の海外協定校との単位認定制度や単位互換協定の締結の可能性を検討する。 ・本校が企画する、現地学生と協働して文化体験を行う「アクティビティ研修」や研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」、海外インターンシップを組織的に推進する。</p>
<p>②-2 学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組を実施する国立高等専門学校への重点的な支援を行う。</p>	<p>②-2 本校が企画する研修プログラムや国際交流プログラムを、オンライン方式を含め実施の検討を継続し、英語コミュニケーション能力の向上や海外に飛び出すマインドを育成させる取り組みを実施する。また、本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育の取り入れや英語ネイティブ教員による英会話教室の継続を行い、学生の英語力向上を図る。 海外派遣体験者の活動報告をまとめ、低学年の特別活動やTeamsなどの配信ツールを用いて視聴できるようにする。</p>
<p>③-1 公私立高等専門学校と協力して、学生の意欲向上や国立高等専門学校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストの活動を支援する。</p>	<p>③-1 他高専と連携を図って、四国・全国高等専門学校体育大会、四国・全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト等の運営実施に携わるとともに、各大会に参加する学生の活動を積極的に支援していく。</p>
<p>③-2 学生へのボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活動への参加の奨励等に関する周知を行う。また、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰、学生評価への反映などによりボランティア活動の参加を推奨する。</p>	<p>③-2 災害ボランティアや地域貢献の学生活動についてパンフレットの配布や特活などを利用して周知する。また、香川高等専門学校学生表彰規定に則り、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰を積極的に行う。</p>
<p>③-3 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を収集するとともに、学生が積極的に活用できるよう促すことで、学生の国際会議の参加や海外留学等の機会の拡充を図る。</p>	<p>③-3 外部の各種奨学金制度や留学情報を収集し、学生が積極的に利用できるようにTeams上に構築した国際交流に関する「情報公開用チャンネル」を活用し、学生の海外留学、国際会議参加等の機会拡充を図る。</p>
<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とするよう、国立高等専門学校に周知する。</p>	<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員については、博士の学位を有する者を条件に教員公募を実施する。</p>
<p>② クロスアポイントメント制度の実施を推進する。</p>	<p>② クロスアポイントメント制度を活用し、企業との人的交流を行う。</p>
<p>③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 また、女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。</p>	<p>③ 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。</p>
<p>④ 外国人教員を積極的に採用した国立高等専門学校への支援を行う。</p>	<p>④ 外国人教員(常勤、非常勤)を積極的な採用に努める。</p>
<p>⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても実施する。</p>	<p>⑤ 長岡・豊橋の両技術科学大学との教員人事交流制度や国立高等専門学校間の教員人事交流制度の候補者を募る。</p>
<p>⑥ 法人本部による研修又は各国立高等専門学校におけるファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な活動を推奨する。 なお、教員の能力向上を目的とした各種研修について、専門機関等と連携し企画・開催する。</p>	<p>⑥ 機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校においても教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究集会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等への積極的な教職員の受講を奨励する。</p>
<p>⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。</p>	<p>⑦ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦する。</p>
<p>(4) 教育の質の向上及び改善 ① 法人本部及び各国立高等専門学校は、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーのふさわしさなどを組織的に精査するとともに、モデルコアカリキュラムに基づく教育の実質化を進め、教育実践のPDCAサイクルを機能、定着させるため、以下の項目について重点的に実施する。また、令和5年4月に公開を予定している改訂モデルコアカリキュラムについて、法人本部主導の説明会等を実施し、令和6年度からの改訂モデルコアカリキュラムに対応した教育実践に向けて、各国立高等専門学校における教育課程の編成及び教育改善を進める。併せて、教育内容の豊富化及び教育指導の質の向上とともに、学生の主体的な学びの促進及び個別最適な学びの支援を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定を推進する。 [Plan] WEBシラバスにおけるルーブリックの明示による到達目標の具体化・共有化 [Do] アクティブラーニング等による教育方法の改善を含めた教育の実施状況の確認と全国立高等専門学校への好事例の共有 [Check] CBT(Computer-Based Testing)を用いた学習到達度の把握、学習状況調査及び卒業時の満足度調査の実施による教育効果の検証 [Action] 教育改善に資するファカルティ・ディベロップメント活動等の推進及びそれらの活動内容の収集・公表</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善 ① 学校および各学科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの点検を行うとともに、教育実践のPDCAサイクルを回すために下記項目を実施する。また、令和6年度からの改訂モデルコアカリキュラムに対応した教育課程になっているかの点検を行う。 [Plan] 点検したディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに沿ったカリキュラム設計になっているか検証する。 [Do] デジタル教材や遠隔対応を効果的に対面授業に取り入れるような教育手法の導入を推進する。 [Check] CBT(Computer-Based Testing)による学習到達度確認結果を授業改善に役立てる。学習状況と卒業時満足度の調査を実施する。 [Action] 教員の資質向上・スキルアップのためのFD研修の開催を推進する。</p>
<p>② 各国立高等専門学校の教育の質の向上に努めるため、自己点検・評価及び高等専門学校機関別認証評価を計画的に進めるとともに、評価結果の優れた取組や課題・改善点については、各国立高等専門学校において共有・展開する。 また、モデルコアカリキュラムに基づく国立高等専門学校の本科における教育の質保証の仕組みとして、令和4年度から本格的に開始した「国立高専教育国際標準(KIS)」について、評価機関と連携した説明会等を行い、国立高等専門学校において制度の理解を更に深め、各国立高等専門学校の自発的な教育改善を推進する。</p>	<p>② 自己点検・外部評価を実施するとともに、機関別認証評価を受審する。</p>

令和5年度 法人本部 年度計画	令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)
③-1 各国立高等専門学校において、地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))の導入を推進する。 また、地域の自治体等と連携し、小中学生・高校生を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を行い、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成を推進するとともに、国立高等専門学校におけるSTEAM教育の高度化を図る。	③-1 1～3年生を対象に学年・学科横断で導入した地域課題解決型のPBL科目「ブレ研究・研究基礎」の充実を図るとともに、各学科におけるPBL導入を推進する。これらのPBL科目において学生のコンピテンシー評価の実施とその結果の学生へのフィードバックを実施する。 また、地域の自治体等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育の支援を行う。
③-2 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、インターンシップ等の共同教育を実施し、その取組事例を取りまとめ、国立高等専門学校に周知し、国立高等専門学校における取組の強化を推進する。	③-2 香川高専の支援組織である香川高専産業界技術振興会、地域企業等の協力を得て、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進する。
③-3 セキュリティを含む情報教育について、関係する外部機関と連携し教員の指導力向上を図るとともに、これまでに開発したカリキュラムや教材を活用した教育実践を国立高等専門学校に展開する。	③-3 セキュリティを含む情報教育について、K-SEC等の教材及び講習会を活用し、教育内容の高度化を図る。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎)の受審を検討する。
④ 高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材等を活用した教育、教員の研修、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携教育、人事交流などの分野で有機的な連携を推進する。	④ 技術科学大学のプログラムを用いて教育の質向上につなげるとともに、人事交流についても積極的に教員に周知し、連携を推進する。
(5)学生支援・生活支援等 ① 各国立高等専門学校の学生相談体制の充実のため、カウンセラー及びソーシャルワーカー等の専門職の配置を促進するとともに、各国立高等専門学校の学生指導担当教職員に対し、障害を有する学生への支援を含めた学生指導に関し、外部専門家の協力を得て、具体的事例等に基づいた実効性のある研修を実施する。	(5)学生支援・生活支援等 ① カウンセラー、ソーシャルワーカー、心療内科医の専門職を配置し、学生相談体制を充実させ、以下の活動を実施する。 (a) 個々の案件に対する情報共有は、関係教員によるチームで対応する。担任や相談室員との面談やカウンセリングが必要な学生に関しては、本校非常勤カウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携して適切な支援を実施する。 (b) 合理的配慮の申請のあった学生に関しては、障がい学生支援委員会を開催し、支援を開始するとともに、進級時における支援継続の有無についても保護者と定期的に連絡をとりながら対応し、支援内容を決定する。支援についての合意書を学校、学生、保護者等の署名のうえで交付する。また、修学サポート室とも連携をはかりながら教育支援体制を強化する。 (c) 合理的配慮・支援のための入学前面談を実施する。教員、専門職員等の複数人面談を行うことで、より適切な支援を行う。 (d) 全学生を対象にした自殺防止アンケートについては、機構本部の「学校適応感尺度調査(高専生活に関するアンケート)」を実施するだけでなく、本校独自の「こころと体の健康調査」も実施する。 (e) 学生対象に「自殺防止」、「メンタルヘルス」、「ソーシャルスキルトレーニング」に関する講演や研修を実施する。 (f) 教職員対象に「発達障がい」、「学生(ヤング)ケアラー」等に関する講習会の実施や定期的な事例報告会を実施し学生支援の向上に繋げる。 (g) 本校作成の面談基本シートをもとにした、担任による全学生面談を実施する。 (h) 両キャンパスの学生相談室交流を実施、有益な情報交換を行い、学生支援の質を充実させる。
② 高等教育の修学支援新制度などの各種奨学金制度に係る情報が学生に適切に行き渡るよう、法人本部が中心となり各国立高等専門学校に積極的な情報提供を行う。また、ホームページや刊行物などの活用や様々な機会を利用して税制上の優遇措置について、適切に情報提供し、理解の拡大を図ること等により、産業界など広く社会からの支援による奨学金制度の充実を図る。	② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや一斉メール、香川高専だより、電子掲示、教室掲示を通して学生に迅速に周知する。また、税制上の優遇措置を含めた情報を産業界や地域振興会などの行事において積極的に発信し、奨学金制度の拡充に努める。
③ 各国立高等専門学校において、入学時から卒業時までの計画的なキャリア教育を推進し、卒業生や企業等と連携を図るとともに、キャリア支援を担当する窓口の活用を促す等、企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援の充実を図る。また、次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時にキャリア支援も含めた満足度調査を実施するとともに、卒業生の情報を活用するネットワーク形成のため、同窓会や令和4年度に設立された一般財団法人高専人会との連携を図る。	③ 産官や同窓会からの支援により、低学年からのキャリア教育を実施する。 ・キャリアサポートセンターが提供するインターンシップ・就職・進学情報提供や相談に、Microsoft 365やホームページを活用する。 ・学生の就職支援をサイボウズなどを利用して学科長または担任と連携して実施する。 ・4年生のインターンシップ報告書を、低学年に情報提供する。 ・5年生の就職・進学活動報告書を、4年生に情報提供する。 ・同窓会や産業界技術振興会との連携により、卒業生を活用したキャリア教育や就職・進学支援を実施する。
1.2 社会連携に関する事項 ① 広報資料の作成、「国立高専研究情報ポータル」等のホームページの充実やプレスリリースの配信などにより、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。	1.2 社会連携に関する事項 ① 香川高専ホームページの教員の技術シーズや研究成果などの情報発信の強化する。 Researchmapの更新を促し、運動している「国立高専研究情報ポータル」等の情報を更新する。 地域自治体等と連携した理科教育や社会人教育のための講座を積極的に実施する。
② 高専リサーチアディミニストレータ(KRA)や地域共同テクノセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信や知的資産化など社会還元を努める。	②-1 共同研究・受託研究の受入れを促進し、その成果情報の発信や知的財産化に努める。 ②-2 地域産業界や自治体、(一社)みとよAI推進機構:MAiZM、東京大学松尾研究室と連携し、AI社会実装教育研究本部及び各キャンパスに置かれたAI社会実装教育研究センターにおいてAIの基礎・応用教育を行う。さらに社会実装を目指したビジネス教育、アントレプレナーシップ教育を実施する。 ②-3 国立高等専門学校間の研究ネットワークを活用し、以下の活動を行う。 ・香川高専を含む高専機構内12高専で立ち上げた「高専AIプロジェクト」内の情報交換等を積極的に行いそれぞれの高専が持っている地域課題(地域企業からの共同研究、自治体からの依頼等)を高専間で連携し、(一社)みとよAI推進機構:MAiZM、東京大学松尾研究室の協力を得て解決を目指す。 ・KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築(KOSEN-REIM)に参画し、社会基盤メンテナンス教育センター(iMec)において、地域における社会基盤のメンテナンス人材育成事業、インフラに関する産官学地域連携である「香川社会基盤メンテナンス推進協議会」における情報発信および地域課題解決を行う。
③-1 法人本部は、各国立高等専門学校の情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組むとともに、情報発信に積極的に取り組む国立高等専門学校には、校長裁量経費を配分する措置を講じる。	③-1 報道機関等との連携を強化し、報道機関等に対して積極的に情報提供を行う。また、ホームページを通じた情報発信を強化する。
③-2 各国立高等専門学校は、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて、社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を法人本部に随時報告する。	③-2 報道機関等への積極的な情報提供により、本校の強み・特色・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を広く発信する。また、報道された内容等については機構に随時報告する。
1.3 国際交流等に関する事項 ①-1 諸外国に「日本型高等専門学校教育制度(KOSEN)」の導入支援を展開するにあたっては、各国の日本国大使館や独立行政法人国際協力機構(JICA)等の関係機関との組織的・戦略的な連携の下に、相手国と連携・協議しつつ、その要請及び段階等に応じた支援に取り組む。	①-1 機構本部の要請に応じて、第4ブロック高専やJICA四国等と連携し、諸外国への「KOSEN」の導入支援に協力する。
①-2 モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、モンゴルの自助努力により設立された3つの高等専門学校を対象として、教員研修、教育課程の助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。	①-2 機構本部の要請に応じて、モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。
①-3 タイにおける「KOSEN」の導入支援として、以下の支援を実施する。 ・令和元年5月に開校したKOSEN-KMITL及び令和2年6月に開校したKOSEN KMUTTを対象として、日本の高専と同等の教育の質となるよう、日本の高専教員を常駐させ、教員研修、教育課程への助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。 ・タイのテクニカルカレッジにおいて日本型高等専門学校教育を取り入れて設置された5年間のモデルコースを対象として、教員研修、教育課程への助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。	①-3 機構本部の要請に応じて、タイにおける「KOSEN」の導入支援として、昨年度までタイ高専に常駐した専門学科教員の経験を中心として教員研修や学校運営向上への助言等に協力する。
①-4 ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援として、以下の支援を実施する。 ・ベトナム政府の日本型高等専門学校教育制度導入に向けた取組への協力を実施する。 ・ベトナムの教育機関において日本型高等専門学校教育を取り入れて設置されたモデルコースを対象として、教員研修や教育課程への助言、学校運営向上への助言等の支援を実施する。	①-4 機構本部の要請に応じて、ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。
①-5 リエゾンオフィスを設置している国以外への「KOSEN」の導入支援として、政府関係者の視察受入及び法人本部との意見交換等を通じて、「KOSEN」についての正しい理解の浸透を図る。	①-5 本校の協定校等に対して、「KOSEN」についての正しい理解の浸透に努める。
② 「KOSEN」の導入支援に係る取組は、各国立高等専門学校の協力のもと、学生及び教職員が実践的な研修等に参画する機会を得て、国際交流の機会としても活用し、「KOSEN」の海外展開と国立高等専門学校の国際化を一体的に推進する。	② 機構本部の「KOSEN」導入支援に係る取組みに協力する。
③-1 学生が海外で活動する機会を後押しする体制の充実のため、以下の取組を実施する。 ・「日本型高等専門学校教育制度(KOSEN)」の導入支援対象校やこれまでで学生交流協定を締結している海外教育機関を中心として単位認定制度の整備や単位互換協定の締結を推進する。【再掲】 ・海外の教育機関との包括的な協定の締結などにより、組織的に海外留学や海外インターンシップ、学生交流を推進する。【再掲】	③-1 本校の海外協定校との単位認定制度や単位互換協定の締結の可能性を検討する。 ・本校が企画する、現地学生と協働して文化体験を行う「アクティビティ研修」や研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」、海外インターンシップを組織的に推進する。
③-2 学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組を実施する国立高等専門学校への重点的な支援を行う。【再掲】	③-2 本校が企画する研修プログラムや国際交流プログラムを、オンライン方式を含め実施の検討を継続し、英語コミュニケーション能力の向上や海外に飛び出すマインドを育成させる取り組みを実施する。また、本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育の取り入れや英語ネイティブ教員による英会話教室の継続を行い、学生の英語力向上を図る。 海外派遣体験者の活動報告をまとめ、低学年の特別活動やTeamsなどの配信ツールを用いて視聴できるようにする。
③-3 「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を収集するとともに、学生が積極的に活用できるよう促すことで、学生の国際会議の参加や海外留学等の機会の拡充を図る。【再掲】	③-3 外部の各種奨学金制度や留学情報を収集し、学生が積極的に活用できるようにTeams上に構築した国際交流に関する「情報公開用チャンネル」を活用し、学生の海外留学、国際会議参加等の機会拡充を図る。
④-1 外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。 ・諸外国の在日日本大使館等への広報活動を実施する。【再掲】 ・英語版ホームページや説明会等を通じ、高等専門学校教育の特性や魅力について情報発信を強化する。【再掲】 ・重点3カ国及び周辺諸国における広報活動の実施や情報発信の強化にあたっては、リエゾンオフィスの活用を中心に実施する。	④-1 優秀な留学生の獲得に向けて、留学希望者を対象とした広報誌への発信並びに既存の広報物の英語版コンテンツや香川高専Webコンテンツの充実等に取り組み、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。

令和5年度 法人本部 年度計画	令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)
<p>④-2 日タイ産業人材育成協カイニシアティブに基づく、本科1年次からの留学生の受入を実施する。また、KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTから本科3年次への留学生の受入を実施する。</p>	<p>④-2 タイからの留学生受入れについて先行的に実施している高専との情報交換を行い、受入れ態勢を検討する。</p>
<p>⑤ 法人本部は、教員や学生の国際交流の際には、文部科学省が定める「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」に準じた危機管理措置を講じて、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を行う。 各国立高等専門学校においては、外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組むとともに、法人本部において定期的に在籍管理状況の確認を行う。</p>	<p>⑤ 国際交流における危機管理体制について検討する。 海外渡航する学生・教職員に対して、海外旅行保険に加入するよう徹底する。 本校の留学生に関して、学業成績や資格外活動の状況等を定期的に把握し、適切な在籍管理に取り組む。</p>
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 なお、毎年の運営費交付金額の算定については、運営費交付金債務残高の発生状況にも留意する。</p>	<p>2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 一般管理費削減のため、コスト削減を引き続き実施する。調達においては、競争性・透明性の高い一般競争契約を実施し、経費削減に努める。</p>
<p>2. 2 給与水準の適正化 職員の給与水準については、国家公務員の給与水準を十分考慮し、当該給与水準について検証を行い、適正化に取り組むとともに、その検証結果や取組状況を公表する。</p>	<p>2. 2 給与水準の適正化 関係規則等に基づき、適正に給与決定を行う。</p>
<p>2. 3 契約の適正化 業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。 さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、「調達等合理化計画」の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。また、「調達等合理化計画」の実施状況をホームページにより公表する。</p>	<p>2. 3 契約の適正化 業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化(透明性の確保、公正な競争の促進)を推進し、契約は原則として一般競争入札等により行う。 さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づき、入札要件の緩和や広告期間のより十分な確保等により、複数社による応札、応募業者の増加に努める。</p>
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 理事長のリーダーシップのもと、各国立高等専門学校における教育上の自主性や強み・特色などの機能強化を後押しするため、予算配分方針をあらかじめ定め、各国立高等専門学校に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。 また、各国立高等専門学校のアクティビティに応じた戦略的な予算配分にあたっては、以下の取組等を実施する。 ・法人本部は、各国立高等専門学校の情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組むとともに、社会への情報発信に積極的に取り組む国立高等専門学校のインセンティブとなるよう、アクティビティに応じて、校長裁量経費を配分する措置を講じる。 独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長のリーダーシップのもと予算配分方針を検討し、企画運営会議で審議し、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。 業務達成基準による収益化を原則とし、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。</p>
<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、令和4年度に寄附増進方策として実施したホームページから寄附案内ページへのアクセス性の向上や、利便性の高い決済方法の導入等について、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図る中で案内を行うほか、広く周知に努める。さらには、寄附者に対する成果の可視化を実施すること等により、寄附金の獲得につながる取組を推進する。</p>	<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・教職員による企業見学会、イブニングセミナー、シーズ発表会等の開催により、香川高等専門学校産業技術振興会会員企業等との交流を深めることで、受託研究・共同研究等を推進し、外部資金の獲得を図る。 ・科学研究費補助金や各種財団研究支援への応募を推奨し、研究資金の獲得に努める。 ・同窓会等と連携して卒業生が就職した企業等との交流を強化することで、香川高専支援基金等への寄付獲得に努める。</p>
<p>3. 3 予算 別紙1</p>	
<p>3. 4 収支計画 別紙2</p>	
<p>3. 5 資金計画 別紙3</p>	
<p>4. 短期借入金の限度額 4. 1 短期借入金の限度額 156億円 4. 2 想定される理由 運営費交付金の受入れの遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入することが想定される。</p>	<p>4. 短期借入金の限度額 該当無し</p>
<p>5. 不要財産の処分に関する計画 5. 1 以下の不要財産について、速やかに現物を国庫に納付する。 ①苫小牧工業高等専門学校 錦岡宿舍団地(北海道苫小牧市明徳町四丁目327番236)4,492.10㎡ ②福島工業高等専門学校 下平窪団地(福島県いわき市平下平窪字鍛冶内30番2、30番7)1,502.99㎡ 桜町団地(福島県いわき市平字桜町4番1)480.69㎡ ③沼津工業高等専門学校 香貫宿舍団地(静岡県沼津市南本郷町569番、570番)287.59㎡ ④有明工業高等専門学校 平井団地(熊本県荒尾市下井手字丸山768番2)288.66㎡ 宮原団地(福岡県大牟田市宮原町一丁目270番)2,400.54㎡ 正山71団地(福岡県大牟田市正山町71番2)284.31㎡ ⑤舞鶴工業高等専門学校 大波団地(京都府舞鶴市宇大波上小字滝ヶ浦1112番)453.90㎡ ⑥徳山工業高等専門学校 御弓町団地(山口県周南市大字徳山字上御弓丁4197番1)1,321.37㎡ 周南住宅団地(山口県周南市周陽三丁目21番2)1,310.32㎡ ⑦熊本高等専門学校 平山宿舍団地(熊本県八代市平山新町字西新開3142番1)2,773.00㎡ 新開宿舍団地(熊本県八代市新開町参号3番94)1,210.26㎡ ⑧都城工業高等専門学校 年見団地(宮崎県都城市年見町34号7番)2,249.79㎡ ⑨鹿児島工業高等専門学校 東真孝団地(鹿児島県霧島市隼人町真孝字東真孝169番3)8,466.59㎡ 5. 2 以下の不要財産について、譲渡又は現物を国庫に納付する。 ①函館工業高等専門学校 湯川町団地(北海道函館市湯川町2丁目40番2)2,118.70㎡ 梁川町団地(北海道函館市梁川町13番10)912.75㎡ ②香川高等専門学校 木太町団地(香川県高松市木太町字川西1990番4、2012番2、2013番)1,139.61㎡ 昭和町団地(香川県高松市昭和町一丁目202番、203番1)1,074.37㎡ ③北九州工業高等専門学校 徳力団地(福岡県北九州市小倉南区山手1丁目876番178、186、191、203、226)7,306.37㎡</p>	<p>5. 2 以下の不要財産について、譲渡又は現物を国庫に納付する。 ②香川高等専門学校 木太町団地(香川県高松市木太町字川西1990番4、2012番2、2013番)1,139.61㎡ 昭和町団地(香川県高松市昭和町一丁目202番、203番1)1,074.37㎡ については、それぞれ不動産売買契約書を令和4年度に締結済みであり、令和5年度早期に代金納付及び所有権の移転を完了させる。</p>
<p>6. 重要な財産の譲渡に関する計画 以下の重要な財産について、公共の用に供するため、売却により譲渡し、その売却収入を整備費用の財源とする。 ①津山工業高等専門学校 沼団地(岡山県津山市沼字大加美551番)29.73㎡</p>	<p>該当無し</p>
<p>7. 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生等の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。</p>	<p>7. 剰余金の使途 該当無し</p>
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8. 1 施設及び設備に関する計画 ①-1 「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画2021」(令和3年3月決定)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2018」(平成31年3月決定)に基づき、新しい時代にふさわしい国立高等専門学校施設の機能の高度化や老朽施設の改善などの整備を推進し、施設マネジメントに取り組む。</p>	<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8. 1 施設及び設備に関する計画 ①-1 環境・施設マネジメント委員会を中心として施設マネジメント(キャンパスマスタープラン・施設の有効活用における利用状況調査・スペース再配分・インフラ長寿命化計画等)を推進する。また、寄宿舍などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を踏まえた整備計画に基づき、必要に応じて整備を推進する。</p>
<p>①-2 施設の非構造部材の耐震化については、引き続き、計画的に対策を推進する。</p>	<p>①-2 既に完了している構造体及び非構造部材(屋内運動場の照明器具等)の耐震化について、耐震性能の保全に努める。</p>
<p>② 学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。</p>	<p>② 安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促す。「実験実習安全必携」については、学内ホームページに掲載して周知する。</p>
<p>③ 科学技術分野への男女共同参画を推進するため、女子学生の利用するトイレ等の設置やリニューアルなど、修学・就業上の環境整備を計画的に推進する。</p>	<p>③ 女子学生の修学環境改善、女子寮の居住環境改善、女性教職員の就業環境改善について、必要に応じて整備を推進する。</p>

令和5年度 法人本部 年度計画	令和5年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)
<p>8. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を促進する。</p>	<p>8. 2 人事に関する計画 (1)方針 ① 外部人材として、引き続き、課外活動指導員、カウンセラー、ソーシャルワーカー、心療内科医を起用する。また、寮の宿日直業務の一部についてアウトソーシングを行う。</p>
<p>② 教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分を行う。また、国立高等専門学校幹部人材育成のための計画的な人事交流を行う。</p>	<p>② 提示された教員人員枠の中で教員配置を行う。また、人材育成のための計画的な人事交流を行う。</p>
<p>③ 若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を行う。</p>	<p>③ 弾力的な教員人員枠の活用について検討する。</p>
<p>④-1 専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とするよう、各国立高等専門学校に周知する。【再掲】</p>	<p>④-1 専門科目担当教員については、博士の学位を有する者を条件に教員公募を実施する。</p>
<p>④-2 クロスアポイントメント制度の実施を推進する。【再掲】</p>	<p>④-2 クロスアポイントメント制度を活用し、企業との人的交流を行う。</p>
<p>④-3 ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。また、女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。【再掲】</p>	<p>④-3 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。</p>
<p>④-4 外国人教員を積極的に採用した国立高等専門学校への支援を行う。【再掲】</p>	<p>④-4 外国人教員(常勤、非常勤)を積極的な採用に努める。</p>
<p>④-5 研修会等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。</p>	<p>④-5 シンポジウム及び研修会への参加、ニュースレターの配布を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約する。</p>
<p>⑤ 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。</p>	<p>⑤ 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図る。事務職員は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)、機構本部、国及び近隣大学等が実施する研修会へ積極的に参加させる。</p>
<p>(2)人員に関する指標 常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組むとともに、事務のIT化等により中期目標期間中の常勤職員の抑制に努める。</p>	<p>(2)人員に関する指標 各種研修等に派遣することにより職務能力を向上及び業務効率化を進め、適切な人員配置につなげる。</p>
<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ① 法人のプロジェクト管理組織(PMO)として位置付けた情報戦略推進本部を中心に、情報システムの最適化に取り組む。 ② 法人のDX(デジタルトランスフォーメーション)に持続的に取り組むため、各国立高等専門学校の情報担当者を対象とした研修を進め、人材確保を図る。 ③ 「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人のサイバーセキュリティポリシー対策規則等に則り、法人が行う情報セキュリティ監査及び内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)が実施するNISC監査の結果を評価し必要な対策を講じる。 ④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、情報セキュリティ教育(e-learning)及びインシデント対応訓練等を実施する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育を計画的に実施する。 ⑤ 複雑化する情報セキュリティリスクに対応するために、最高情報セキュリティ責任者(CISO)及び各国立高等専門学校の有識者からなる情報戦略推進本部情報セキュリティ部門が連携し、今後の情報セキュリティ対策等を進める。 ⑥ 国立高等専門学校機構CSIRT(高専機構CSIRT)が中心となり、各国立高等専門学校にインシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。</p>	<p>8. 3 情報システムの適切な整備・管理及び情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ① 法人のプロジェクト管理組織(PMO)として位置付けられた情報戦略推進本部の指示に従い、情報システムの最適化に取り組む。 ② 法人のDX(デジタルトランスフォーメーション)に持続的に取り組むため、情報戦略推進本部の指示に従い、情報担当関係者を研修に参加させ、人材確保を図る。 ③ 「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人のサイバーセキュリティポリシー対策規則等に則り、令和2年度に受けた法人が行う情報セキュリティ監査の結果及び法人が受けた内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)が実施するNISC監査の結果の機構本部による評価を、香川高専にて評価し必要な対策を講じる。 ④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、機構本部の指示に従い、情報セキュリティ教育(e-learning)及びインシデント対応訓練等を実施する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育に参加する。 ⑤ 複雑化する情報セキュリティリスクに対応するために、最高情報セキュリティ責任者(CISO)及び機構本部情報戦略推進本部情報セキュリティ部門の指示に従い、今後の情報セキュリティ対策等を進める。 ⑥ 国立高等専門学校機構CSIRT(高専機構CSIRT)に協力し、インシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。</p>
<p>8. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 理事長のリーダーシップのもと、機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じ機動的に、WEB会議システムを活用した役員会の開催を行う。</p>	<p>8. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 必要に応じ、WEB会議システムを活用した各種校内会議を開催する。</p>
<p>①-2 役員懇談会や校長・事務部長会議その他の主要な会議や各種研修等を通じ、法人としての課題や方針の共有化を図る。</p>	<p>①-2 校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、速やかに学内での情報共有を図る。</p>
<p>①-3 学校運営及び教育活動の自主性・自律性及び各国立高等専門学校の特徴を尊重するため、各種会議や、理事長と各国立高等専門学校校長との面談を通じ、各国立高等専門学校の意見等を聞く。</p>	<p>①-3 各種会議において、必要に応じ本校の状況・意見等を発信する。</p>
<p>②-1 法人全体の共通課題に対する機構のマネジメント機能を強化するため、理事長と各国立高等専門学校校長との面談等を実施する。</p>	<p>②-1 理事長と校長との面談等において、本校の状況・意見等を発信する。</p>
<p>②-2 法人本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、各国立高等専門学校の教職員を対象とした階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を行う。 ②-3 事案に応じ、法人本部と国立高等専門学校が十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。</p>	<p>②-2 新任教職員を対象にしたオリエンテーション、全教職員を対象にしたコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンスの意識の向上を図る。また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加するとともに、機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、自己点検を行う。 ②-3 発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報伝達・対策を行う。</p>
<p>③ これらを有効に機能させるために、内部監査及び各国立高等専門学校の相互監査については、時宜を踏まえた監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。また、内部監査等の結果を監事に報告するとともに、監事を支援する職員の配置などにより効果的に監査が実施できる体制とするなど監事による監査機能を強化する。なお、監事監査結果について随時報告を行う。</p>	<p>③ 公的研究費に関する内部監査マニュアルに基づき内部監査を実施し、監査結果については、情報共有し、効果的・効果的かつ多角的な監査が可能となるよう、監査項目の見直し等について検討する。高専相互会計内部監査マニュアルに基づき高専相互監査を実施し、監査結果については、情報共有し、規則に則った適切な会計事務処理を確認する。</p>
<p>④ 平成23年度に策定した「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を各国立高等専門学校に徹底させるとともに、必要に応じ本再発防止策を見直す。加えて、各国立高等専門学校の研究担当責任者を対象としたWeb会議の開催や各国立高等専門学校において研究費の適切な取扱いに関する注意喚起等を行う。</p>	<p>④ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「高専機構公的研究費不正防止計画」に基づき、公的研究費等の不適正経理を防止する。また、研究費の適切な取扱いに関する注意喚起等を行う。</p>
<p>⑤ 各国立高等専門学校において、機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。また、その際には、各国立高等専門学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</p>	<p>⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定める。</p>